

献 辞

人間環境学部は2002年4月に創設以来、関係各位の温かいご指導とご支援の元で日々の教育研究活動を推進し、本年を以て20周年を迎えることができた。

本学部の来し方、行く末を考えると、忘れてはならないのが、本学部の前身が修道短期大学（第二部）であることである。覚えている人も少なくなったと思うが、人間環境学部の教務係は、短大部の教務も兼ねていた。現在、最古参の教授でもある宮坂教授が、当時短大部の次長を務められていた。したがって、理屈の上では、本学で最も歴史のある学部は人間環境学部ということになる。少し、その背景を説明したい。

修道短期大学（第二部）は1952年に観音キャンパスに開設された。本学の始まりが夜間部であったことは、戦後、勉学の機会が乏しかった当時の時代背景による。その後、1956年に修道短期大学（第一部）を開設した本学は、1960年に広島商科大学と校名変更し、昼間部を開設する。商学部が本学の看板学部であるのは、昼間部としてできた最初の学部であるからだろう。このとき、校名から一度「修道」と言う名前が消えている。それに合わせ、修道短期大学（第二部）は、広島商科大学短期大学部と改称されている。その後、1973年に校名が広島修道大学となり、「修道」という名称が再登場する。おそらく商科大という枠組みから、より幅広い学問分野を擁する総合大学への転換を目指したと思われる。

総合大学化への転換を図り、商学部に加えて、人文学部が加わる。人文学部は、修道という名称とともに作られた最初の学部である。同時に、広島商科大学短期大学部は、再び名称変更がされ、広島修道大学短期大学部となる。1974年には、現在の所在地である沼田キャンパスへ移転し、法学部、経済科学部が開設され、文科系総合大学としての地位を高めていく。

私たちの人間環境学部は、教養教育グループを母体とし、社会科学系の環境専門家を育成する学部として、2001年4月に文部省に設置を申請し、本学5番目の学部として2002年4月に開設された。入学定員140名（昼間主コース119名、夜間主コース21名）、編入学定員10名（昼間主コース7名、夜間主コース3名）、専任教員数19名からなる一学部一学科の学部である。本学部の前身であった広島修道大学短期大学部は2005年に廃止されたが、本学部は開設の経緯から社会人を対象とする夜間主コース（フレックスコース）を引き続き維持してきた。

私は、夜間主の学生を教えた、今では数少ない教員の一人である。19名の教員が、隔年交代で、夜間授業を担当していた。社会人でありながらあえて苦難な道を選び、大学での学びを志す学生は、高校を卒業したての昼間部の学生とはどこか異なっているように思われた。本学開設当時の昭和、戦後から高度成長期にかけて夜間部で学んだ修道短期大学の学生たちもかくあったのかも知れない。個性的な学生も多かったと記憶している。6限授業の開始は18時であった。薄暗くなりはじめた校舎に学生が三々五々集まり、仕事終わりの関係上、少し遅れて教室に入ってくる学生などもいた。授業終了は21時20分である。広電バスもそれに合わせて、今より遅くまで運行していて、授業が終わると慌てて研究室に戻り、支度をして最終バスに飛び乗っていた。今思うと、夢のような懐かしい光景である。

この夜間主コースも時代の流れには逆らえず、定員の維持が困難となり、2010年に廃止された。結果、人間環境学部人間環境学科は入学定員を145名（現在の入学定員は115名）とした。学部開設の2002年が本学部の第一の誕生日とすれば、昼間部のみとなった2011年が第二の誕生日と言える。

人間環境学部は、設立趣意書にあるとおり、人文科学、社会科学、工学系・理学系の様々な学問分野にまたがる教員で構成されている。教員のバックグラウンドが多様なため、人間環境学部はカリキュラムの学際性を特徴としていた。しかし、学生の質保証が求められる昨今、カリキュラムは過去の総花的なものから積み上げ式を意識したより体系的なカリキュラムへと改定を重ねている。2023年カリキュラムにおいては、従来の「環境マネジメントコース」「環境教育コース」に加え、人間環境学の自然科学的な側面に焦点を当てる「環境科学コース」も設定した。また、フィールドでの専門的な実習を指導できる若手の意欲的な教員が本学部 に在籍しており、彼らを中心に体験型の新規授業（自然観察実習、フィールド特殊実習（西表）等）も構想中である。

本学部が無事に20周年を迎えられたことは、ひとえに学部の創設とその後の発展にご尽力を頂いた歴代学長、学部長、そして学部教員及び大学関係者の多大なご尽力、ご支援のたまものである。この機会に紙面を借りて感謝申し上げる。

2022年11月1日

人間環境学部 学部長
中 園 篤 典